unitech

HT680 Rugged Handheld Terminal

取扱説明書

400737G 初版

本マニュアルについて

本マニュアルは、HT680 ハンドヘルドターミナルのインストール、操作、そして保守方法について説明しています。

本書のいかなる部分もユニテック社からの書面による許可なしで、いかなる形式でも、電子的あるいは機械的を問わず複製することはできません。これは、フォトコピー、レコーディング、あるいは情報の保存と検索システム等の電気的もしくは機械的な方法を含んでいます。本書の内容は予告なく変更することがあります。

© Copyright 2009 Unitech Electronics Co., Ltd. 版権所有。

Unitech グローバルWebサイトアドレス: http://www.unitech-adc.com

Bluetooth は、Bluetooth SIGの登録商標です。

Microsoft, Windows と ActiveSync は Microsoft Corporation. の登録商標もしくは商標です。 本マニュアルで記述されている他の商品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

Unitech は Oracle Embedded Software Licensing Programのメンバーです。

認証について

FCC認証について

本装置は、FCC規則パート15に対応するクラスBデジタルデバイスに対する制限に従ってテストされ、作られています。これらの制限は、居住のための設置における有害な干渉に対して適当な保護を提供するために設計されました。本装置は、無線周波数エネルギーを生成、使用そして放射することができ、そして、規定に従ってインストールおよび使用がされない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。しかし、干渉が特定のインスタレーションで起こらないという保証はありません。もし本装置がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こす場合、これは機器の電源をオンまたはオフにすることによって解決することが出来ます。ユーザは、以下のいずれかの方法で干渉をなくするようにすることができます。

-受信アンテナの方向を変えるか、場所を変える。
-本装置と受信機の間を離す。
-本装置の電源を受信機が接続されている電源と別なところからとる。
-販売店または経験のある無線/テレビ技術者に相談する。

1. 本送信機は、他のアンテナあるいは送信機と結合して配置もしくは操作してはいけません。
2. 本装置は、規制を受けない環境に対する FCC RF 放射制限に適合しています。FCC RF 放射の要求に対応し続けるには、送信中に送信アンテナに直接触れることは避けて下さい。
3. 製造者によって明示的にに許可されない本装置の何らかの変更または修正(アンテナを含む) は、機器を使用するユーザの許可が無効になることがあります。

FCC ラベルについて

本装置は、FCC規則パート15に対応しています。使用は以下の二つを条件とします。

1. 本装置は有害な干渉を引き起こさないこと、そして、
2. 本装置は、望まない動作を発生させる干渉を含む、受信する干渉を許容しなければなりません。

カナダの認証について

このクラス B デジタル装置は、Canadian Interference-Causing Equipment Regulations (カナダ干渉発生機器規定)のすべての要求を満たしています。

欧州における規定について

R&TTE 1999/5/EC および EMC 89/336/ EEC 指令に関する適合宣言。

RoHS について

本装置は欧州連合の規定である電子機器で使用される有害物質の含有についての制限 RoHS (Reduction Of Hazardous Substances) に適合しております。

台湾 NCC 警告について

省略

レーザについて

Unitech HT680 シリーズは、DHHS/CDRH 21CFR Subchapter J 要件と IEC 825-1 要件に適合するために米国で認証されております。Class II と Class 2 製品は危険であるとは考えられておりません。HT680 シリーズは上記の規制の最大値を越えることのない可視レーザダイオード(VLD) を内蔵しています。 スキャナは通常の使用、メインテナンスあるいは規定のサービス操作では人体に害のあるレーザ光ではないように設計されています。

PA600 シリーズについてDHHS/IEC によって要求されるレーザ警告ラベルは本体の背面にあります。

注意! **この仕様以外の方法でコントロールあるいは調整もしくは使用することは、レーザ光が危険になることがあります。スキャナと光学機器を使用すると目の危険が増加します。光学機器は、双眼鏡、顕微鏡、そして拡大鏡を含みます。これにはユーザがかけている眼鏡は含みません**

バッテリについて

HT680はバッテリパックとバックアップバッテリを内蔵しています。いずれのバッテリも長時間使用されなかった後ではバッテリが放電します。

いずれのバッテリも放電した場合、メインバッテリとバックアップバッテリを完全に充電するために16時間充電します。HT680の充電は、以下のように行います。

1. HT680にUSB 充電ケーブルを接続し、5V/3A ACアダプタをUSB充電ケーブルのDCジャックに接続します。
2. HT680をクレードルに置き、5V/3A AC-DC アダプタをクレードルのDCジャックに接続します。

メインバッテリが外された場合、バックアップバッテリは、SDRAMのデータを6時間安全にバックアップします。データが失われることを防ぐには、HT680 を充電せずに長い間放置しないようにしてください。詳細については、9 ページの、*メインバッテリとバックアップバッテリを初めて充電する* をご覧下さい。

注意: 充電可能なバッテリは、最適な性能を保持し続けるには、毎年もしくは500回充電/放電サイクルを行ったときに交換するようにお勧めします。1年以上もしくは500サイクル以上使用するとバッテリが膨れることは普通です。これは有害ではありませんが、使用することはできませんし、各自治体等で定めるバッテリ処理の方法により処分しなければなりません。
リチウムイオンバッテリの性能低下が20%以上ある場合、バッテリは寿命です。使用を継続せずに、バッテリを適正に処分して下さい。

バッテリ電源の使用時間は、バッテリの種類と装置での使われ方によります。以下の方法でバッテリの使用可能時間を維持します。

- 完全放電を繰り返さない。これはバッテリに余計なストレスをかけます。一部を放電し充電を何度も行う方が完全放電よりも望ましいと言えます。リチウムイオンバッテリの部分的な充電は、メモリ効果がないので問題になることはありません。
- リチウムイオンバッテリは涼しい場所において下さい。暑い車の中は避けて下さい。 長期間保存する場合は、バッテリを 40% 程度の充電で保存して下さい。
- リチウムイオンバッテリを放電したまま長期間使わず放置しないで下さい。バッテリは消耗し、寿命は充電を繰り返す場合より半分以下と短くなります。

バッテリの充電について

リチウムイオンバッテリを充電する場合は、周囲の温度を考慮することが重要です。充電は室温あるいはやや涼しい温度で行うのが最も効果的です。バッテリは 10°C から 45°Cの範囲で充電を行うのが基本です。この範囲外でバッテリを充電すると、バッテリにダメージを与え、充電する寿命が短くなります。

注意! **0°C以下でバッテリを充電しないで下さい。内部抵抗が増加し、発熱し、バッテリが不安定で、安全を損ないます。安全な温度で充電を行うには充電器に温度検出の素子が必要です。さらに、バッテリの膨張を保護し、避けるために、バッテリは温度保護の検出がされ、バッテリの温度が50°C以上の場合には充電がされません。**

保存と安全について

数ヶ月間使用されなかった充電済みのリチウムイオンバッテリの容量は、内部抵抗により消耗します。この場合、使用する前に充電する必要があります。リチウムイオンバッテリは、-20℃から60℃の間で保存することが出来ますが、高い温度ではより早く消耗します。バッテリは室温で保存されることをお勧めします。

保証期間について

ユニテック社の保証でカバーされる以下の項目は、通常の使用状況で発生した故障に対して適用されます。

- HT680 – 1年間
- リチウムイオンバッテリ – 3ヶ月間

保証は、機器の改造、不適切なインストールや使用、事故または不注意による損傷、あるいは何らかのパーツが不適切にインストール、もしくはユーザによって交換された場合等は対象外となります。

付属または当社製のアダプタのみ使用して下さい。間違ったアダプタを使用すると、機器に損傷を与えるだけではなくも保証も無効になります。

目次

はじめに i

本マニュアルについて i

認証について ii

FCC認証について ii

FCCラベルについて ii

カナダの認証について iii

欧州における規定について iii

RoHSについて iii

台湾 NCC 警告について iii

レーザについて iv

バッテリについて iv

バッテリの充電について v

保存と安全について v

保証期間について vi

第1章　概要 1

HT680の概要 1

注意 1

保証 2

認証 2

HT680基本仕様 3

HT680アクセサリ 4

HT680製品とアクセサリキット 5

HT680前面 6

HT680側面と背面 7

HT680を使う最初のステップ 8

バッテリパックを取り付ける 8

バックアップバッテリのスイッチ 9

HT680に電源を供給する 9
メインバッテリとバックアップバッテリを初めて充電する 9
スクリーン保護フィルム 10
HT680を初めて使う 10
電源ON/OFFキーを押す 10
スクリーンの補正 10
スクリーンの明るさを調整 10
タイムゾーンと日付の設定 11
タイムゾーンの設定 11
日付/時刻の設定 12
第2章　キーパッドとスキャナの使い方 13
キーパッド 13
HT680ホットキー 14
ソフトウェアキーボード(Windows CEキーボード) 14
Windows CEキーボードを開く 14
Windows CEキーボードのカナ文字サポート 15
バーコードスキャナ 15
第3章　電源について 16
リチウムイオンバッテリの充電 16
メインバッテリとバックアップバッテリを初めて充電する 16
充電の環境を考慮する 17
電源の状態表示 17
「バックアップバッテリ電圧低下」アイコン 17
リチウムイオンバッテリパックの充電 17
HT680の自動シャットダウン 17
バッテリの保存と安全について 18
バックライト設定 19

ウォームブート/コールドブート 19
ウォームブート 19
ソフトウェアによるウォームブート 20
ハードウェアによるウォームブート 20
コールドブート 20
ソフトウェアによるコールドブート 21
ハードウェアによるコールドブート 21

第4章　データ通信 22

概要 22
接続 22
USBケーブル 22
USBクレードル 23
無線LAN通信 23
ActiveSyncの使い方 23
インストール 24
モバイルデバイスウインドウの使い方 26
通信設定の変更 27
無線通信 27
Bluetooth設定 28
Bluetooth ActiveSync 28

第5章　便利なユーティリティ 30

概要 30
スキャナ設定 30
バーコードシンボル 30
Scan2Key 32
レジストリのバックアップと復帰 33
UniPing 33

付録 ワールドワイドサポート 34

第1章

概要

HT680 の概要

HT680は、皆様の作業をより効率よく、そして役立つように強化された、頑丈で、コンパクト、そして手に持ちやすいWindows CEベースのハンドヘルドターミナルです。HT680は、1Dレーザまたは2Dイメージャバーコードスキャナ、タッチスクリーン付きのカラーLCD、キーパッド、Bluetoothと無線LANを内蔵しています。HT680は、カスタマイズや操作に標準的なWindowsベースの環境を提供いたします。

以下のHT680製品ガイドは、HT680を手にとって使えるようにするために、簡単なステップバイステップの操作方法を説明しています。HT680のプログラミングについては、SDKとプログラミングマニュアルをご覧下さい。

注意

1. 本ユニットは、バッテリパックとバックアップバッテリを装着しています。Unitech HT680 は長期間保管されたためにバッテリが放電し、そのために電源が入らない可能性があります。この様な場合、そして初めて使用する場合、HT680に充電ケーブルを接続するか、クレードルに置き、5V/3A AC-DC アダプタを接続し、バックアップバッテリも含めて16時間以上かけて完全に充電して下さい。
2. 通常の状態では、バックアップバッテリは外部電源もしくはメインバッテリから充電されます(メインバッテリが電源を入れられるだけのパワーを持っている場合)。もし初めて充電する場合は、バックアップバッテリはメインバッテリが完全に充電されている間に完全に充電されます。

保証

Unitechの保証期間は、各パーツ、アクセサリによって異なっています。

- HT680ターミナル本体は1年間
- クレードル本体は1年間
- ケーブルは1年間
- バッテリは3ヶ月間

認証

VCCI, TELEC, PSE, CE, FCC, BSMI, UL, CCC 等に適合。

HT680 基本仕様

耐久性/環境	落下	1.8メートル
	防塵・防水(IP)	IP54
	動作温度範囲	-10°Cから50°C
	保存温度範囲	-20°Cから70°C(バッテリなし)
	湿度	5%から95%、結露なし
	ESD(静電気)	接触±8KV、エアー±12KV
キーパッド	英数字	12キー
	その他のキー	ファンクション、ALPHA、ESC、ENTER、カーソル、スキャン、
重量・寸法	重量(g)	280g ± 10g (バッテリ含まず)
	寸法(L x W x H mm)	169 x 55 x 30(突起部を除く)
バッテリ	メインバッテリ	3.7V, 2200mAH, リチウムイオン, 8.14WH
	バッテリ充電時間	4時間以内
	使用可能時間	Bluetooth使用時: 12時間 無線LAN使用時: 約8時間
	バックアップバッテリ	70mAH, リチウムポリマー
ディスプレィ	2.7インチ、カラーTFT LCD、タッチスクリーン	
	解像度	240 x 320ピクセル
クレードルと充電器	USBクレードル / Ethernetクレードル / モデムクレードル, 4スロットバッテリ充電器, 通信・充電ケーブル	
バーコードスキャナ	1Dレーザ、2Dイメージャ	
OSとメモリ	CPU	PXA270 – 520MHz
	オペレーティングシステム	Windows CE 5.0 Professional
	Flash ROM	512MB
	SDRAM	128MB
スピーカー	あり	
通信インターフェース	USBクライアント、USBホスト	
拡張メモリスロット	miniSDスロット	
無線	802.11b/g	
	Bluetooth	

HT680 アクセサリ

以下の各項目は、HT680の機能を強化するために別途販売されています。

通信・充電クレードル

USB クレードルは、HT680のデータ通信と充電のために使用します。モデムクレードルは、電話回線を通したデータ通信と充電のために使用します。

通信・充電ケーブル

付属もしくは別売の USB ケーブルは、HT680ターミナルに直接接続し、データ通信と充電のために使用します。

電源アダプタ

この電源アダプタは、通信･充電クレードルまたは通信･充電ケーブルに直接接続し、HT680に直接電源を供給もしくはバッテリパックの充電に使用します。この電源アダプタは、100ボルトから240ボルトから変換しますので国内だけではなく、海外でも使用が可能です。

携帯用ケース

HT680を移動時に保護します。

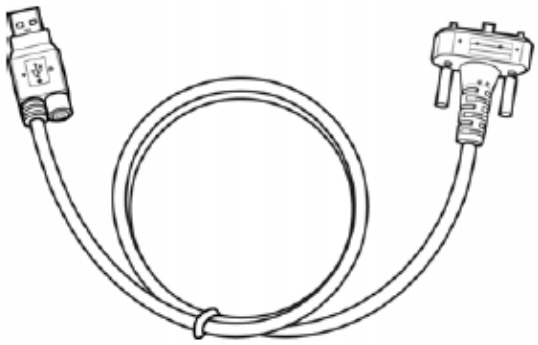
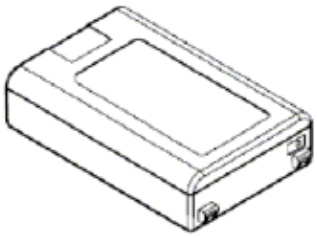
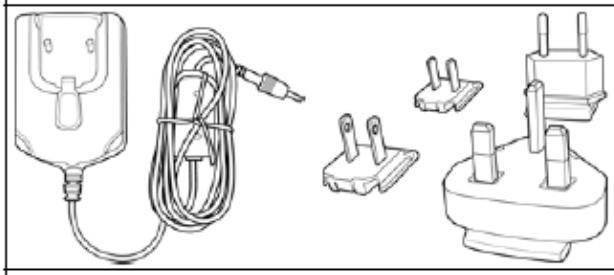
ストラップとスタイラス

ストラップはスタイラスをHT680に固定するために使用します。

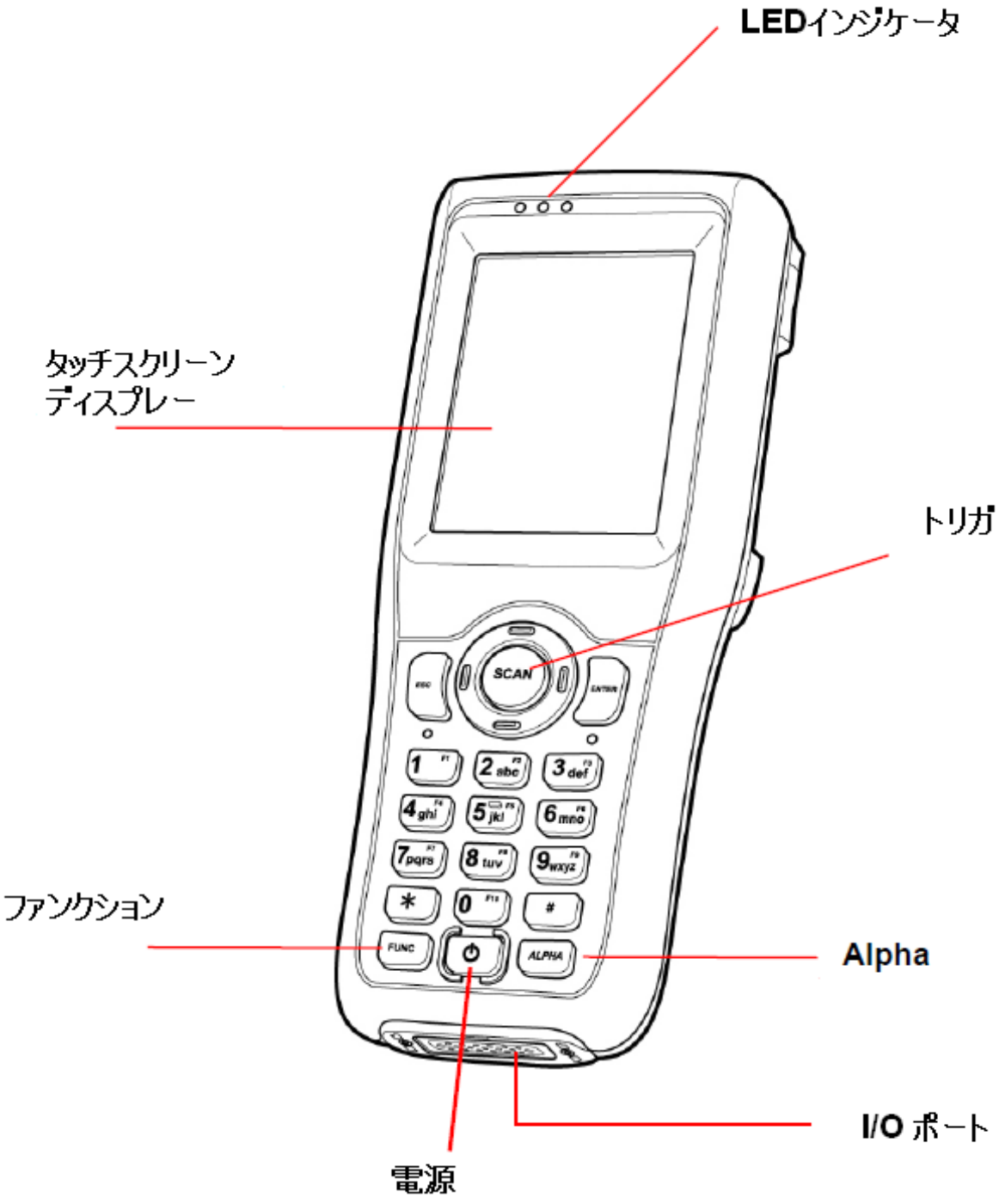
リチゥムイオンバッテリパック

充電可能な、3.7v，2200mAh リチゥムイオンバッテリパック。HT680ターミナルの主電源を供給します。

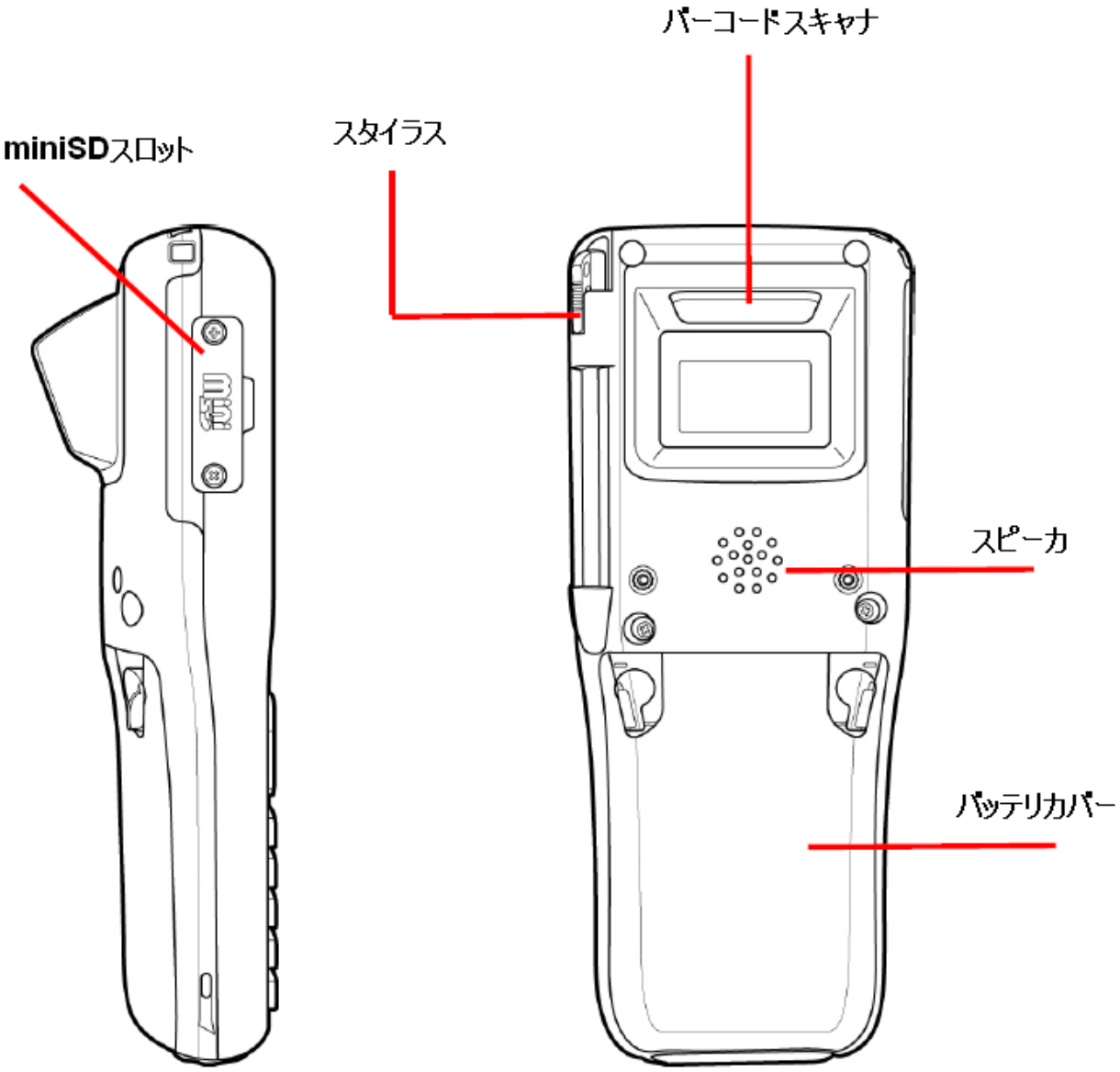
HT680 製品とアクセサリキット

HT680ターミナル	マニュアルCD
	
通信・充電ケーブル	バッテリ
	
アダプタ　　プラグ	通信クレードル

HT680 前面


LEDインジケータ
タッチスクリーン
ディスプレー
トリガ
ファンクション
Alpha
I/O ポート
電源
SCAN
FUNC
ALPHA

HT680 側面と背面



HT680 を使う最初のステップ

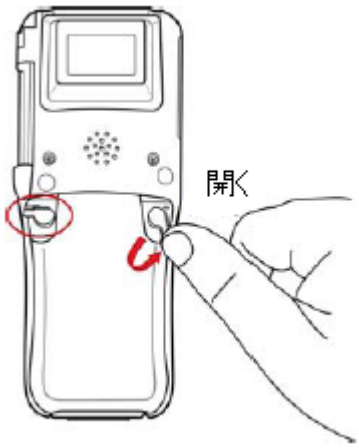
HT680を初めて使う前に、バッテリを完全に充電します。HT680を充電する方法は三通りあります。

- クレードル
- USB・充電ケーブル
- 充電済みのリチウムイオンバッテリパック

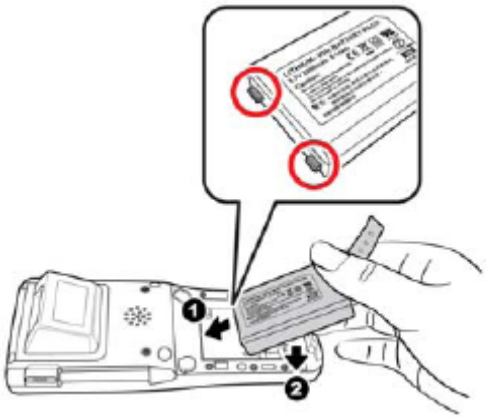
注: HT680のバックアップバッテリが充電されていない場合、データを失うことがあります。メインバッテリを充電する前に、バックアップバッテリのスイッチをオンにして下さい。

バッテリパックを取り付ける

1. バッテリカバーを外す。



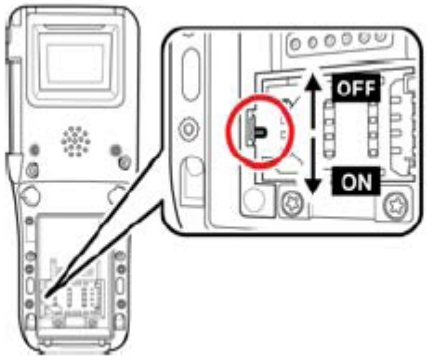
2. バックアップバッテリスイッチをオンにします(次ページの説明を参照)。
3. バッテリパックのコンタクトがバッテリ収容部のコンタクトと合うようにバッテリパックを挿入します。バッテリを滑らせるようにして入れます。



4. バッテリカバーを閉じます。

バックアップバッテリのスイッチ

バッテリ収容部の左側にあるバックアップバッテリスイッチを探します。メインバッテリを充電する前に“ON”の位置になっていることを確認します。



HT680 に電源を供給する

USB・充電ケーブルを HT680 に接続し、AC アダプタのDCプラグをケーブルのDCジャックに接続し、コンセントに差し込みます。

あるいは、HT680 をクレードルに置きます。(ACアダプタをクレードルに接続しておきます。)

メインバッテリとバックアップバッテリを初めて充電する

初めて使用する場合、16時間以上充電することをお勧めいたします。バッテリが放電した後、通常の使用では充電時間は約4時間ですが、最初は16時間充電して下さい。メインバッテリを充電している間、バックアップバッテリも充電されます。バックアップバッテリのスイッチがオンになっていることをお確かめ下さい。

注意: バックアップバッテリが完全に充電されていない場合、RAMのデータが失われる危険性があります。これは、メインバッテリが放電し、かつACアダプタに接続されていない場合に起こりえます。このため、最初にメインバッテリを充電する前にバックアップバッテリのスイッチを入れることはとても重要です。

スクリーン保護フィルム

スクリーンを保護するために、HT680 はプラスチック保護フィルムを使用しています。必要なら外すことが出来ます。フィルムがないとより傷が付きやすくなりますが、見易くなります。

HT680 を初めて使う

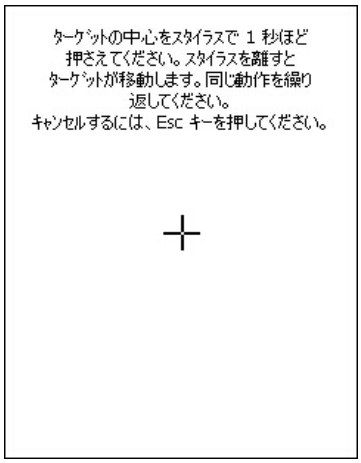
電源 ON/OFF キーを押す

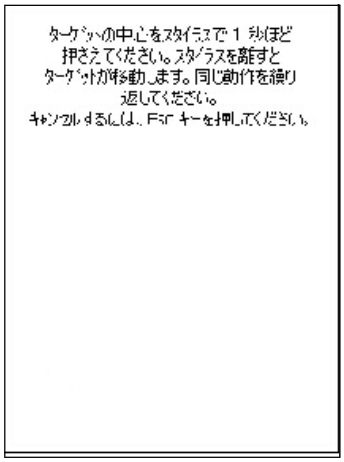
Unitech HT680 ウェルカムスクリーンが現れます。Windows CE スクリーンがその後すぐに現れます。

スクリーンの補正

指示されるように、スタイラスを使用して、タッチスクリーンを補正するためにターゲットを確実にタップします。

操作を終了したときに、Windows CEシステムをスタートするためにEnterキーを押します。





スクリーンの明るさを調整

スクリーンの標準設定されている明るさを調整するには、バックライト設定が必要です。新しい設定の手順については、19 ページをご覧下さい。

タイムゾーンと日付の設定

HT680 の使用を始める前の数分間を使って日付と時刻を設定します。これにより適切なタイムスタンプが適用されます。

タイムゾーンの設定

タイムゾーンを設定するには、以下のステップを実行します。

都市のリストを見るために場所の矢印をタップします。

1. 場所を選びます(あるいはリストされている近い場所)。
2. 必要なら、夏時間のチェックボックスを選択します。
3. 適用ボタンをタップします。

ターミナルで夏時間の時刻調整を自動的に行いたい場合は、「自動的に夏時間の調整をする」をチェックして下さい。(日本国内では当面使用することはありません。)

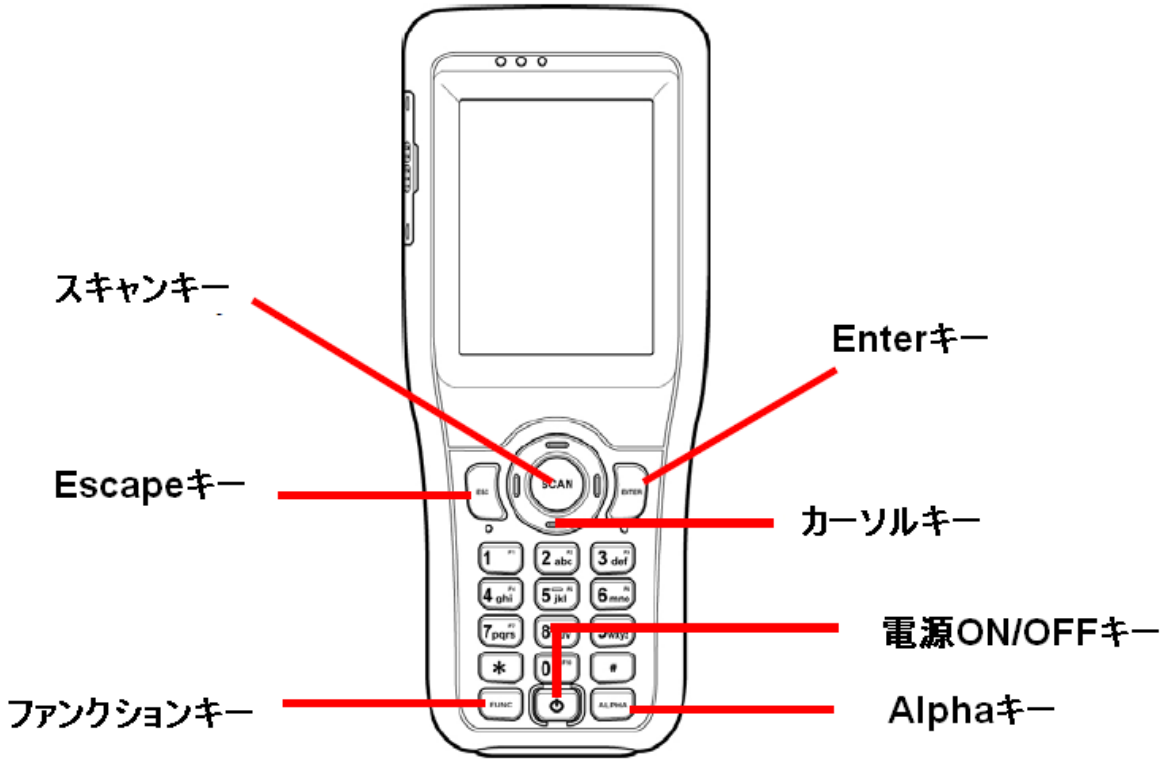
日付/時刻の設定

年と月を選択するには、右または左の矢印をタップしてスクロールします。もしくは、年あるいは月の設定を変えるために直接、年または月をタップします。時刻を設定するには、時/分/秒 をそれぞれタップして時/分/秒の値を入力します。(英語版では、AM/PMを指定します。)

キーパッドとスキャナの使い方

キーパッド

0から9、アルファ(Alpha)、ファンクション、Escape、Enter、スキャナトリガ、カーソル、そしてON/OFFキーをキーパッドを通してHT680にデータを入力することが出来ます。



[ENT]　　Enterキー、データの入力を確認する。

[FUNC]　　ファンクションキー、他の数字キーと組み合わせて、ホットキーとして使用(次ページ参照)

[ESC]　　Escapeキー、前のページに戻る

[カーソル] カーソルキー、スクリーンの中を移動する

[Alpha]　　Alphaキー、英字モードのオン･オフとCapsモードのオンオフ。Alphaキーを1回押すと、英文字入力となり、青いLEDが表示されます。二回押すと、大文字の入力モードとなり、緑のLEDが表示されます。三回目は数字入力に戻ります。

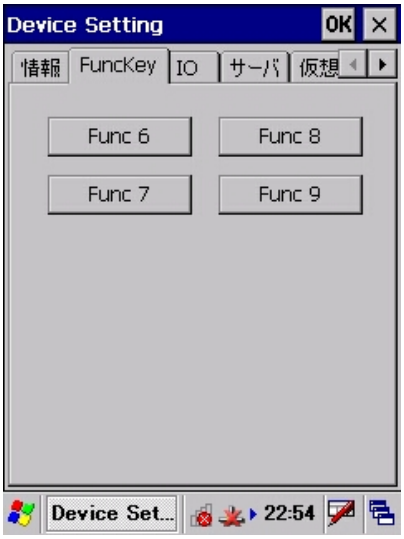
HT680 ホットキー

HT680 は、よく使う機能をホットキーとして提供しています。以下にリストされた機能について、ファンクションキーと数字キーを押して実行します。

Func + 6 = タスクマネージャ
Func + 7 = スキャナ設定
Func + 8 = 電源プロパティ
Func + 9 = システム情報

ホットキーは、ユーザの好みに合わせて変更することが出来ます。ホットキーを変更するには、以下のように行います。

パス: 設定/コントロールパネル/DeviceSetting/FuncKeyタブ



ソフトウエアキーボード (Windows CE キーボード)

ハードウェアキーボード以外に、HT680 は文字入力の方法としてタッチスクリーンキーボードを提供しています。このソフトウェアキーボードは、標準のPCキーボードと同じ配置をしています。

Windows CE キーボードを開く

Windows CE キーボードは、タスクバーの「キーボード」アイコンをタップすることにより開くことが出来ます。

WinCE キーボードのカナ文字サポート

標準のキーボード入力に加え、HT680 は日本語のカナ文字と記号の入力をサポートしています。文字を入力するには、入力パネルをひらがな/カタカナに切り替えます。

バーコードスキャナ

HT680 は、主要なバーコードラベルを読み込むことが出来る 1D レーザまたは 2D イメージャバーコードスキャナ(モデル名による)を内蔵することが出来ます。

電源について

リチウムイオンバッテリの充電

HT680のバッテリは、USB通信ケーブルまたはオプションのクレードルを通して充電することが出来ます。いずれも付属のACアダプタを使用します。バッテリの完全充電には約4時間かかります。最初に充電する場合は、16時間以上充電されるようにお願いします。(以下の説明をご覧下さい。)

メインバッテリとバックアップバッテリを初めて充電する

HT680を初めて充電する場合、メインバッテリとバックアップバッテリの完全な充電に最低16時間かかります。HT680 の出荷時は、バックアップバッテリを保護するためにバックアップバッテリスイッチはオフになっています。HT680を初めて充電する前に、バックアップバッテリスイッチをオンの位置に切り替えて下さい。バックアップバッテリスイッチは、メインバッテリ収容部にあります。バックアップバッテリが十分に充電されていない場合、データが失われることがありますので、最初の充電前にバックアップバッテリスイッチをオンの位置にすることは極めて重要なことです。

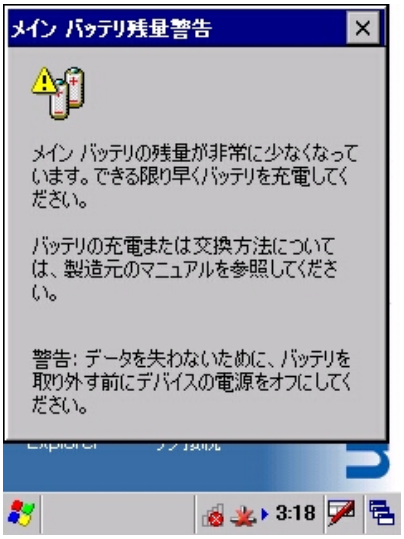
適正に充電されたバックアップバッテリは、スイッチを押して電源が入るだけのメインバッテリの電源がなくなってから72時間、あるいはメインバッテリからの電源がなくても6時間データを保持します。ただし、これは勧められません。適当に充電されたメインバッテリまたはAC電源を接続し、通常以外もしくは非常な場合でも、バックアップバッテリに頼らないようにします。バックアップバッテリの異常によるデータ損失を防ぐために、(常に可能性がある)、メインバッテリなし、あるいはAC電源を接続せずにバックアップバッテリで使用することを出来る限り少なくして下さい。

充電の環境を考慮する

リチウムイオンバッテリパックを充電する場合は常に周囲の温度環境を考慮することが重要です。このプロセスは常温もしくは少し涼しい場所で最も効率的です。 -5°C から 50°Cの一定の範囲でバッテリを充電することが基本です。指定した範囲外でのバッテリの充電は、バッテリに損傷を与え、充電のライフタイムを短くします。

電源の状態表示

"メインバッテリ残量警告" メッセージが現れた場合、システムシャットダウンを避けるためにできるだけ早くメインバッテリパックの充電をします。



「バックアップバッテリ電圧低下」 アイコン

"バックアップバッテリ電圧低下" アイコンが現れたら、バックアップバッテリの電圧が低くなっており、充電する必要があることを示しています。

リチウムイオンバッテリパックの充電

HT680の自動シャットダウン

HT680 は、タスクが無い場合、あるいはすべてのタスクが入力待ちになっている場合、アイドルモードに入ります。標準の設定では、HT680 は3分間アイドルが続き、そして外部電源に接続されていない場合、自動的に電源が切れます。電源ボタンを押すと、HT680は自動的にシャットダウンした時と同じポイントに戻ります。

アドバイス

アドバイス 1: 無線モードを使用していない場合オフにして下さい。これによりバッテリの消費を抑えられます。

アドバイス 2: インターネットアクセスが不要な場合IOスロットの無線を無効にして下さい。

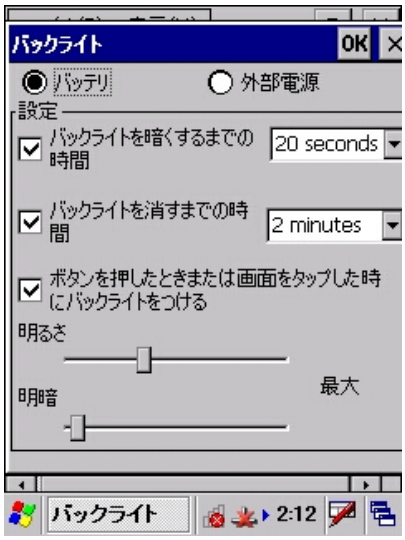
バッテリの保存と安全について

バッテリはオープンな環境で保存し、偶発的なショートやその他のダメージを受けない場所において下さい。充電されたリチウムイオンバッテリは数ヶ月間使われない場合がありますが、その容量はバックアップと内部抵抗のために減ります。これが起こる場合、使用する前に充電する必要があります。リチウムイオンバッテリは、-20 °C から 70 °Cの間で保存して下さい。

バックライト設定

カラーディスプレィのバックライトはユーザが設定することが出来ます。二つのオプションがあり、一つはバッテリ電源、もう一つは外部電源です。

フィールド	説明
バッテリを暗くする	バックライトを暗くするまでの時間を秒、分で選択
バックライトを消す	バックライトを消すまでの時間を秒、分で選択
バックライトをつける	ボタンが押されたとき、またはタッチスクリーンがタップされたときにバックライトをオンにしたいす場合は、このオプションを選択。



ウォームブート / コールドブート

ウォームブート

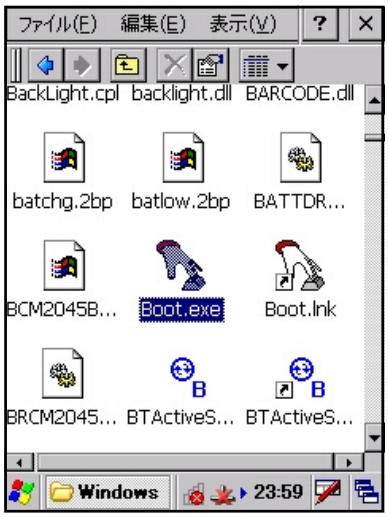
ウォームブートは、保存したデータを失うことなくHT680を再ブートするためにリセットします。ウォームブートは、以下の場合に行います。

- ターミナルの応答がない
- あるアプリケーションソフトウェアをインストールした後
- ネットワークカード等のあるシステム設定の変更を行った場合

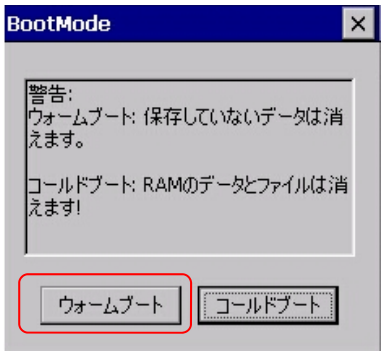
警告 - ウォームブートを実行すると、保存されていないデータは失われます。

ソフトウェアによるウォームブート

ソフトウェアによってウォームブートするには、Windows/Boot.exeファイルを実行します。



「ウォームブート」をタップします。システムは、ウォームスタートします。

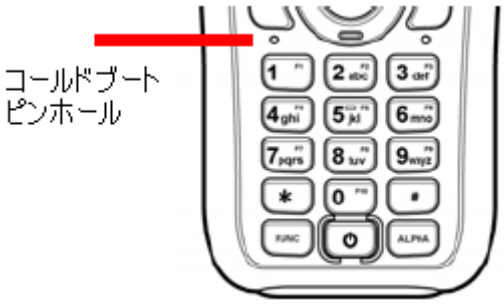


ハードウェアによるウォームブート

HT680の表面、キーパッドの上、にあるウォームブート用ピンホールにクリップを伸ばしたピンのようなものを挿入します。

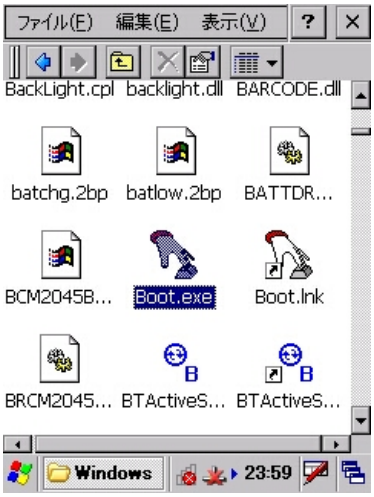
コールドブート

コールドブートは、オペレーティングシステムをリセットし、ターミナルを工場出荷時の設定に戻します。HT680のコールドブート用ピンホールにピンを挿入することによってコールドブートすることもできます。

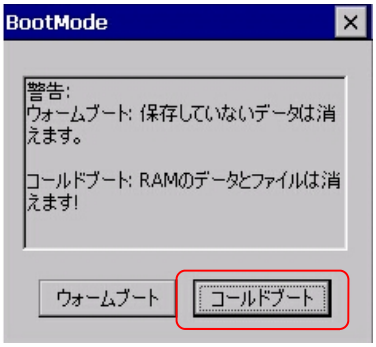


警告 - コールドブートを実行すると、HT680は工場出荷時の設定に戻ります。

ソフトウェアによるコールドブート



ソフトウエアでコールドブートを実行するために、ファイルWindows/Boot.exeを実行します。



「コールドブート」をタップします。システムは再スタートし、工場出荷の標準値に戻ります。
スクリーンの補正をし、日付と時刻をセットする必要があります。

ハードウェアによるコールドブート

1. メインバッテリを外す
2. バックアップバッテリのスイッチをオフにする
3. バックアップバッテリスイッチをオンにする
4. メインバッテリを入れる
5. ターミナルはコールドスタートし、工場出荷標準値に戻る
6. スクリーンを再補正し、日付と時刻をセット

第4章

データ通信

概要

Unitech HT680 は、ホストコンピュータと USB、Bluetooth、あるいは無線LANによってリンクすることが出来ます。

本章は、HT680の通信の概要を説明します。以下のセクションはこれらのトピックスについて説明しています。

- ケーブルまたはクレードルによる“USB またはモデム”通信
- HT580とホストコンピュータ間の無線通信による“RF 通信”
- USBポートによるシリアル通信を使用する“Microsoft ActiveSync”

接続

USB ケーブル

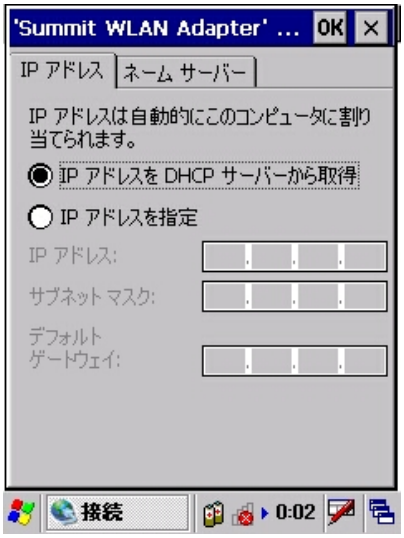
HT680通信ケーブルのUSB側をPCのUSBポートに挿入し、もう一方をHT680の通信ポートに接続します。同時にHT680を充電するには、ACアダプタのDCプラグをUSBコネクタのDCジャックに差し込みます。

USBクレードル

データ通信をするには、クレードルに付属のUSBケーブルのUSBコネクタをクレードルに、もう一方のコネクタをPCのUSBポートに差し込みます。同時にHT680を充電するには、AC アダプタをクレードルのDCジャックに差し込みます。

無線LAN通信

Windows CE は TCP/IP プロトコルをサポートしており、ユーザは「ネットワークとダイアルアップ出力」の設定を通してインターネットとリンクすることが出来ます。ネットワークとダイアルアップ接続で、インターネット接続のIP設定のために SDCCF10G1 へ進みます。



ActiveSyncの使い方

Microsoft ActiveSync を使用して、デスクトップコンピュータとターミナル間の同期と転送を行うことが出来ます。ActiveSync の最新版はマイクロソフトのWebサイト http://www.microsoft.com/downloads/en/default.aspx からダウンロードすることが出来ます。

その他の機能

ActiveSyncでは、以下のことが出来ます。

- データのバックアップと復元
- ターミナルとコンピュータ間でファイルをコピー(同期ではなく)
- 同期モードを選択したときに発生する同期をコントロールする。例えば、コンピュータに接続されている間連続して同期する、あるいは同期コマンドを選択した場合にのみ同期する。
- どの情報タイプを同期するかを選択し、データを同期する大きさをコントロールする。例えば、過去何週間分の予定を同期するかを選択する。

インストールを開始する前に、以下を注意してお読み下さい。

- インストール中にコンピュータを再スタートしますので、すべてのプログラムの作業を終了します。
- 通信設定を行うには、HT680 とホストコンピュータを接続するためのUSBケーブルが必要です。
- サービスパック付きの Windows NT® オペレーティングシステムを使用している場合、サービスパックを再インストールするようにセットアップ中に情報が表示されます。まず接続し、うまくいかなかったら、最新のサービスパックを再インストールします。

何が必要か

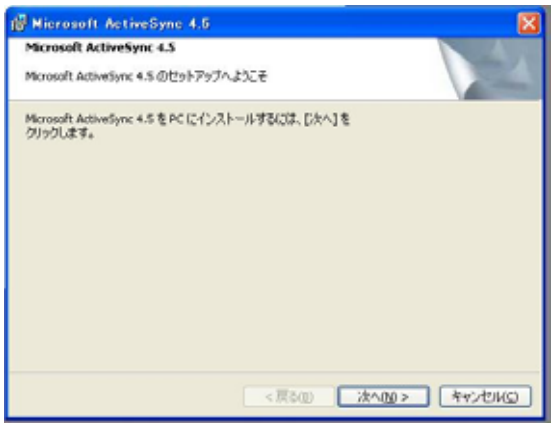
同期するには、ActiveSync バージョン 3.7 以上をPCとターミナルの両方にインストールする必要があります。HT680 ターミナルは既に ActiveSync をインストールしています。従って、PCにのみ ActiveSync をインストールする必要があります。

コンピュータにActiveSync をインストールするには、Microsoft のWebサイトからプログラムをダウンロードします。

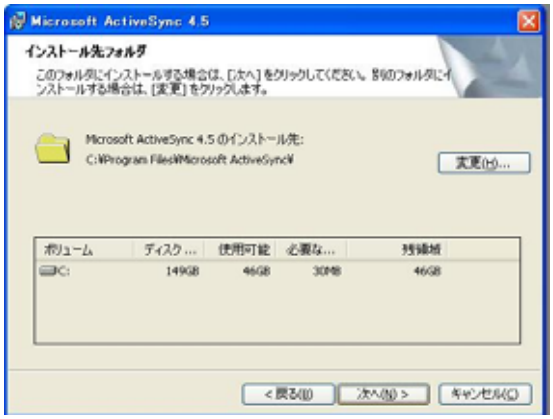
インストール

Microsoft ActiveSyncをインストールするには以下のインストール手順に従い、HT680をPCに接続し、そして必要なら同期するためのパートナーシップを確立します。

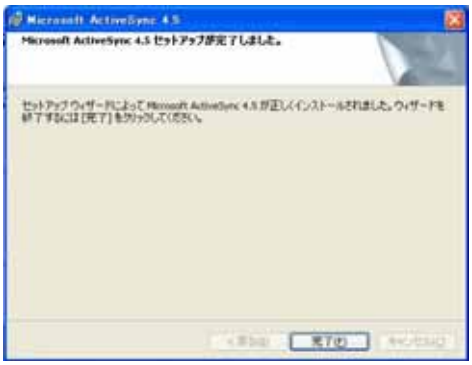
Microsoft のweb サイトからActiveSyncプログラムをダウンロードします。このプログラムを実行します。



Microsoft ActiveSyncをインストールするフォルダを選択します。表示された標準のフォルダにインストールしない場合、変更ボタンをクリックします。



フォルダを選択した後で、Microsoft ActiveSyncをセットアップするために「次へ」をクリックします。Microsoft ActiveSync をインストールした後でコンピュータを再スタートします。右のスクリーンが現れます。



USBケーブルを使用して、HT680をコンピュータのUSBポートに接続します。

HT680 の電源を入れ、「次へ」ボタンをクリックしま

Microsoft ActiveSync は、HT680 を認識し、通信を行います。接続を検出できないというメッセージが現れたら、「キャンセル」ボタンをクリックして、通信設定をマニュアルで行います。

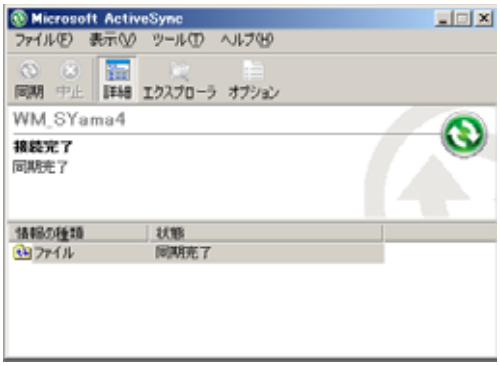
HT680 が最初にPCに接続されたとき、「パートナーシップ」の設定を求める右の画面が現れます。パートナーシップの設定は、HT680が他のコンピュータと同期をとるために必要となります。そうでなければ、「いいえ」を選択します。

ここで同期設定を選択します。現在、HT680 は「ファイルの同期」をサポートしています。

「パートナーシップ」を通して同じPCに接続されたターミナルが複数台ある場合、別のHT680は同じデバイス名を共有することが出来ません。HT680の標準のデバイス名は「WinCE」が割り当てられています。複数のターミナルを同じPCに接続する場合、各ターミナルに異なる名前を指定することが重要です。ActiveSync が右のスクリーンを表示した場合、各ターミナルを独自のユニークな名前にします。

HT680とコンピュータ間のパートナーシップを設定するために「次へ」ボタンをクリックし、以下の指示に従います。このパートナーシップは、二つのコンピュータ間の情報を同期することが出来ます。

設定のプロセスが終了したら、右のスクリーンが現れます。

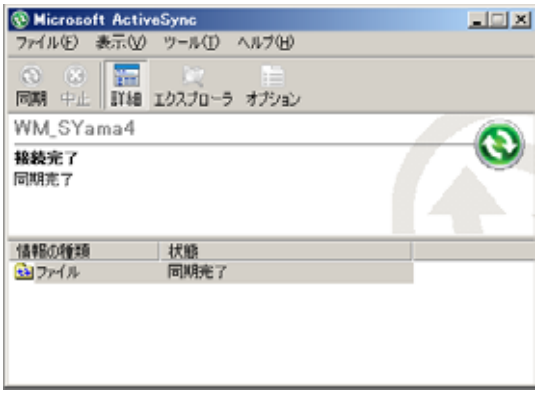


同期は初期化され、周期的な同期もしくは接続時に同期することを選択した場合、同期が行われます。

メモ: コンピュータは、複数のHT680とパートナーシップを作成することが出来ます。 また、HT680 は二台のコンピュータとパートナーシップを作成することが出来ます。

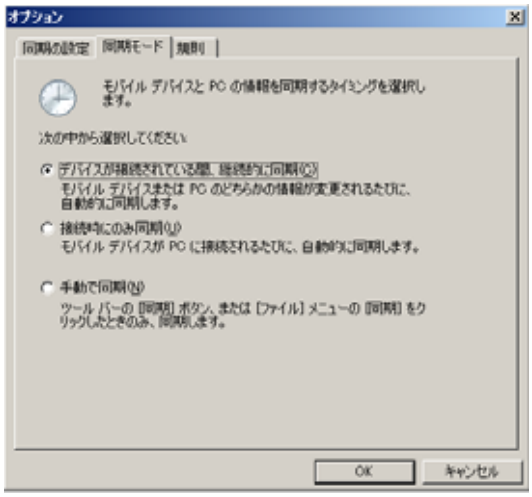
モバイルデバイスウインドウの使い方

デスクトップのActiveSync ショートカットをクリックすることによってMicrosoft ActiveSyncをスタートし、「エクスプローラ」アイコンをクリックします。

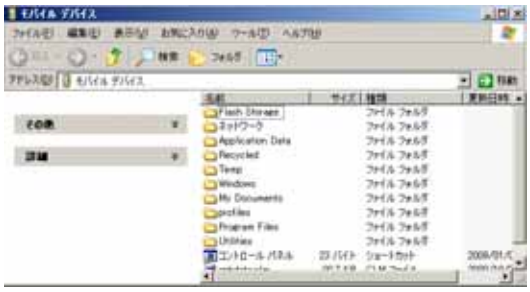


表示されたウインドウで以下が可能です。

「同期」のセクションで説明したように、同期の変更等の Microsoft ActiveSync 機能を使用するためにオプションを選択します。



モバイルデバイスウインドウで、デバイスアイコンをダブルクリックすることによって、エクスプローラウインドウを開きます。



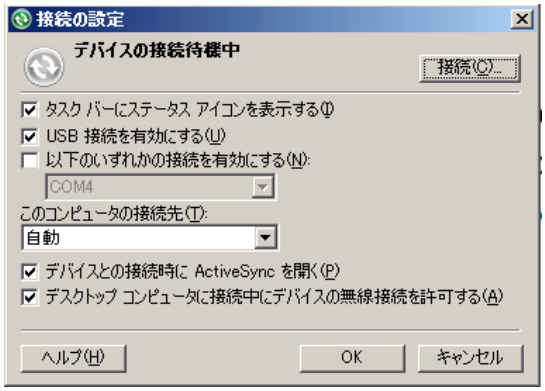
HT680のルートウインドウであるこのウインドウを使用し、「同期」セクションで説明した通り、HT680とコンピュータ間でファイルのコピーと移動を行います。

通信設定の変更

Microsoft ActiveSync がインストール中にHT680の検出に失敗した場合、代わりにマニュアルで通信をセットアップします。以下の状態にあることを確認して下さい。

- 正しいコンピュータの通信ポートが選択されており、しかも空いていることを確認して下さい。
- Microsoft ActiveSync は、HT680と接続するために指定された通信ポートを使用します。これらのリソースがMicrosoft ActiveSyncでHT680と接続するために使用可能であることを確認して下さい。他のプログラムはHT680とコンピュータが接続されている間は使用することが出来ません。
- HT680の転送速度をセットします。コンピュータはそれに合わせます。

通信設定をチェックするには、モバイルデバイスフォルダを開き、ファイル/接続設定をクリックします。HT680の接続は、標準ではUSB接続となっています。



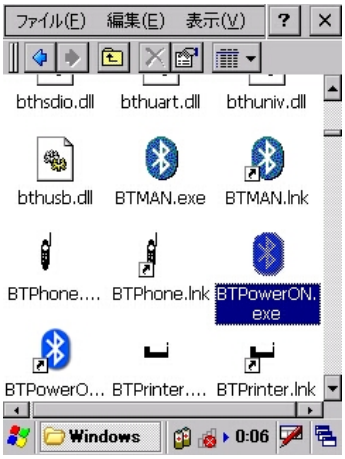
詳細については、 Microsoft ActiveSync のヘルプをご覧下さい。

無線通信

HT680 は、無線通信のためにBluetoothを内蔵しています。

Bluetooth 設定

スタート、プログラムからBluetoothを選択し、BTPowerON プログラムをスタートします。



Bluetooth モジュール電源オンを選択して OKをタップします。

Bluetooth ActiveSync

スタート、プログラム、Bluetoothから BTActiveSync を選択します。

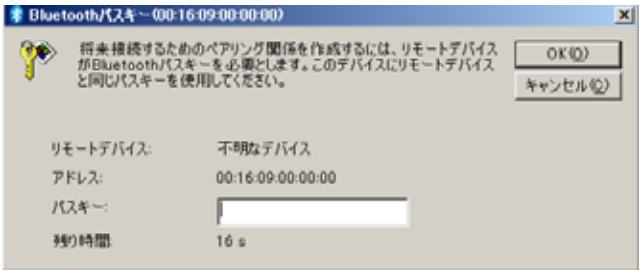
PC で、タスクバーの Bluetooth アイコンをタップします。右のスクリーンが現れます。 その他... を選択します。

デバイススキャンを選択します。スキャンには数秒間かかります。そして、同期するデバイスを選択し、OKをタップします。

タスクバーの Bluetooth アイコンを再度タップします。同期をタップします。

HT680 にメッセージ「Bluetoothと接続中」が現れます。

Bluetoothセキュリティスクリーンが現れ、PINコードの入力が求められます。この PIN コードは、任意の文字と数字の列で、HT680で入力要求されたものと同じコードでなければなりません。



HT680 で入力が求められた場合、PCで入力した PIN コードと同じものを入力します。正しく入力したら、同期が完了します。

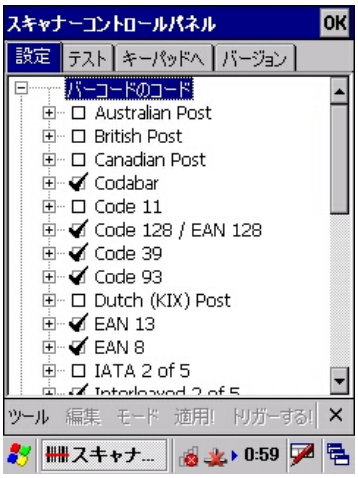
第5章

便利なユーティリティ

概要

ユニテックは、ユーザのアプリケーションに便利なユーティリティを提供しています。

スキャナ設定



別のアプリケーションで標準のバーコードシンボル設定を変更する必要がある場合、スキャナコントロールパネルは、シンボル標準値の変更、スキャンしたデータの後にデリミタ文字を置く、そして設定を保存することができます。スタート/設定/コントロールパネル/Scanner からこのプログラムを実行するとスキャナコントロールパネルが表示されます。

バーコードシンボル

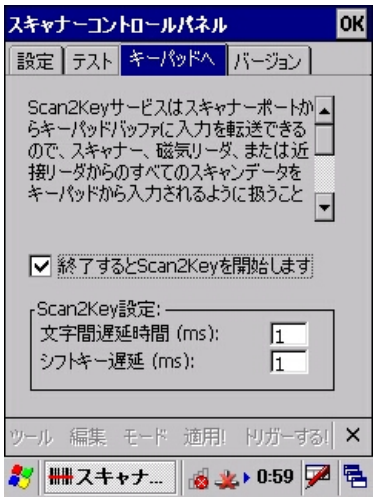
バーコードシンボル	有効/無効	文字チェック / デジット検証	チェック文字/デジット送信	最大/最小長	先頭桁送信	その他
Bookland EAN	YES					
Codabar	YES	YES	YES			スタート/ストップヒット送信，CLSI フォーマット，*データ長
Code 11	YES	YES				* チェックデジット，*データ長
Code 128	YES					*データ長
Code 32	YES					末尾桁送信

バーコード シンボル	有効/ 無効	文字 チェック / デジット 検証	チェック 文字/ デジット 送信	最大/ 最小 長	先頭 桁 送信	その他
Code 39	YES	YES				ASCIIの場合、スタート/ストップビット、ファンクションコード、二重ラベルデコード、*データ長、*二重ラベルセパレータを送信
Code 93	YES		YES			*データ長
Delta Code	YES	YES	YES			
EAN 128	YES		YES			コード ID、*フィールドセパレータを送信
EAN 13/ JAN13	YES	YES				
EAN 8/JAN8	YES	YES				*先頭/末尾桁消去しない、*データ長
Interleaved 2 of 5	YES	YES	YES			固定長、*先頭/末尾桁消去しない、*データ長
Label Code IV & V	YES		YES			
MSI/Plessy	YES		YES			*チェックデジットダブルモジュール 10、*データ長
Standard 2 of 5	YES	YES	YES			固定長、*データ長
Telpen	YES					標準文字セット

バーコード シンボル	有効/ 無効	文字 チェック / デジット 検証	チェック 文字/ デジット 送信	最大/ 最小 長	先頭 桁 送信	その他
UPC A	YES		YES		YES	
UPC E	YES		YES		YES	ゼロ拡張、NSC
UPC/EAN グループ						補助2、補助5、補助コードの前にスペース挿入、補助コード必須、*アドオンコードトライレベ

注: *印は、スキャナコントロールパネルV3.0以降で値を調整可能

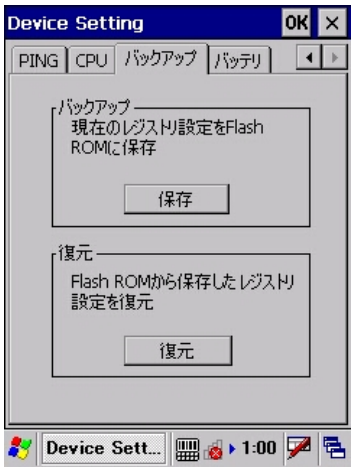
Scan2Key



Scan2Key アプリケーションは、スキャナポートからの入力をキーボードバッファに送るので、これにより、すべてのスキャンしたデータはキーパッドから入力したかのように扱われます。これを使うと、スキャンしたデータはMicrosoftワードパッドのような汎用的なアプリケーションに直接入力することが出来ます。Scan2Key は、スタート/設定/コントロールパネル/Scanner/キーパッドへのタブから起動することが出来ます。

「終了するとScan2Keyを開始します」にチェックを付け、OKをタップします。

レジストリのバックアップと復帰



レジストリバックアッププログラムは、HT680のレジストリ設定を保存します。コールドブートが必要になった場合、あるいは、ユーザが以前の状態にレジストリを戻したい場合、ユーザはバックアップしたレジストリを使って戻すことが出来ます。

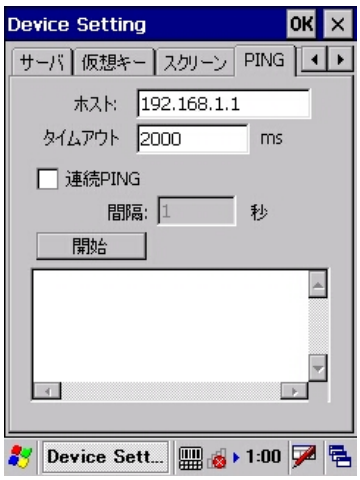
レジストリの復帰は、HT680のレジストリを以前に保存したバージョンに戻すことが出来ます。

パスは以下の通りです。

設定/コントロールパネル/Device Setting/バックアップタブ

UniPing

このプログラムは、通信の状態を確認するためにIPアドレスを送出ことができます。



Device SettingのPINGタブを選択します。ホストに、相手先のIPアドレスをセットします。連続してテストする場合は、「連続PING」のチェックボックスをセットします。そして開始ボタンをタップします。

ワールドワイドサポート

ユニテック社の専門サポートチームは、皆様からのご質問や技術に関するサポートに速やかにお応えしています。使用している機器について問題が起こった場合、お近くのサービスセンターにご連絡下さい。連絡先の情報につきましては、以下のWebサイトをご覧下さい。

地域	Web サイト
本社	www.unitech-adc.com
Unitech アジア太平洋 & 中東	www.unitech-utp.com.tw
中国(Unitech China)	www.unitech-sbd.com
日本(ユニテック・ジャパン)	www.unitech-japan.co.jp
米国(Unitech America	www.ute.com
南米(Unitech Latin America)	www.latin.ute.com
欧州(Unitech Europe)	www.unitech-europe.nl